広島県立病院医誌49(1)
77頁，2017

第33回日本集中治療医学会中国四国地方会を主催して

山野上敬夫

2016年２月20日（土）に広島市で開催された，「第33回日本集中治療医学会中国四国地方会」を会長として主催する機会を与えられたので，感謝の気持ちを込めてご報告します。

本学会は読んで字のごとく集中治療医学に携わる会員の学術の場であり，その構成員には二つの特徴があります。一つは会員の所属する診療科であり，救急科，麻酔科，内科，外科，小児科等を始めとして，広く全分野にわたっています。もう一つの特徴は，医師に加えて，看護師，臨床工学技士，薬剤師，診療放射線技師など，多くの職種が参加していることです。これはとりもなおさず集中治療が扱っている重症患者の診断や治療が，多くの診療科と職種を集めて初めて可能になることを示しています。これらの力の結集により，多くの重症患者が救命され後遺症が軽減されていることは，論を待ちません。それを受けて，今回の学会全体のテーマを，

「あしたのために
～ つなげよう，深めよう，チームの輪と和 ～」

としました。「あした」をことさらにひらがなで表記したのは，当救急科の楠医師の，あしたのジョーへのこだわりでした。楠先生の人脈で，特別講演には東京慈恵会医科大学麻酔学講座准教授の鈴木昭広先生をお招きし，「集中治療領域における新しい気道管理戦略」と題してのご講演をいただきました。多くの会員が強いインパクトを受け，大変有益な内容のお話でした。

実は私たちの中国四国地区は，長年にわたって集中治療医学に積極的に取り組み，治療内容の充実や人材の育成などにおいて日本集中治療医学会の中心的役割を担ってきました。歴史ある日本集中治療医学会中国四国地方会の名に恥じない学会とするためには，私の力では心もとなかったので，オール広島の総力を結集し，広島大学大学院麻酔蘇生学（河本昌志教授）と，同救急集中治療医学（志馬伸朗教授）の両教室からも力強いサポートをいただき，共同作業として取り組み，お陰様で成功裡に会を終了することが出来ました。

県立広島病院としては桑原正雄前院長の強い応援をいただき，また藤川前看護部長，原田・宮迫両副看護部長を始めとして，多くの医師・看護師の皆様に，準備・企画の段階からご支援をいただきました。また，医師・看護師・臨床工学技士からは多くの演題のご発表をいただきました。これはコ・メディカルを含めての，当院の学術面の向上の機運を盛り上げるための材料になったと思います。今後も皆様に研究発表を重ねていっていただきたいと，切に希望しています。

最後に，お金の話で恐縮です。収支を黒字にできるのかどうか，実はかなりプレッシャーになっていました。これが杞憂に終わったのは，広島県，広島大学麻酔蘇生学同門会，広島県医師会，広島市医師会，広島県病院薬剤師会等からの助成金に大きく助けていただいたお蔭でした。心から感謝します。そして最後に，冬季にしては天候もよく，本地方会過去最高の390名の有料入場者をお迎えしたことが喜びでした。県立広島病院の職員およびOBの皆さんを始めとするお一人お一人のご参加の皆様に感謝し，学術面でも当院が地方をリードしていくことを祈念して稿を終えます。ありがとうございました。

県立広島病院　救命救急センター